



NCAJ

National Camping Association of Japan

事業計画書 2015

公益社団法人日本キャンプ協会

公益社団法人日本キャンプ協会 2015年度 基本方針

2015年度は、設立50周年を翌年に控え、さまざまな「準備」を積み重ねる一年となります。まずは、多くの人が集い、学びあうイベントとしての設立50周年記念事業の準備。そして、51年目からの日本キャンプ協会が社会に貢献する団体であり続けるための準備。ふたつの準備を具体的に進めていかなければなりません。

この過程においては、多くの人のかかわりが不可欠です。設立50周年という節目とそのタイミングで行う大きな事業を進化のチャンスとして、人が財産である公益社団法人としての機能を高めたいと考えています。

ひとつめの準備は、第6回アジア・オセアニア・キャンプ会議と第21回全国キャンプ大会を中心とする設立50周年記念事業に向けたものです。2015年度は、「研修部会」「キャンプ白書部会」「イベント部会」などの作業グループを始動させ、具体的な準備を進めます。

日本キャンプ協会にとって、国際会議の開催は2000年の第5回国際キャンプ会議以来16年ぶり、全国キャンプ大会も5年ぶりの開催となります。ただ単に多くの人が参加する場をつくるのではなく、多くの会員や関係各団体の方々が、「伝える側」「つくる側」に立って参画できるようなプログラムづくりと働きかけに努め、設立50周年にふさわしい、にぎやかで楽しい学びと交流の場を目指します。

2015年度から2016年度に連なる取り組みを通じて、日本のキャンプ文化を再認識し、より豊かなものにしていく端緒にしたいと考えています。

もうひとつの準備は、51年目からの日本キャンプ協会のあり方を考えるものです。

日本キャンプ協会の歴史をさかのぼってみると、社会教育の優れた場としてのキャンプの重要性が減ることはありませんでした。現代の社会的課題の細分化や地縁の薄まりに呼応して、その重要性はいつそう高まっているとも言えます。しかし、日本キャンプ協会として、その変化に十分対応できたとは言えない部分があるのも事実です。また、日本キャンプ協会の基盤となっている指導者資格を伴う会員制度は、資格というものに対する意識の変化や、人口動態の変容の影響を受け、必ずしも盤石とは言えない状況になっています。

そこで、経営基盤を安定させるとともに、より多様に社会に貢献できる協会となるよう、取り組みを進めます。新たな経営資源を見いだしたり、協会の運営体制に変更を加えるたりするのは、容易なことではありませんが、危機感をもって取り組みたいと考えています。

協会として必要な業務を着実にやりながら、ここにあげた「準備」を同時に進めるためには、多くの人々のかかわりあいが必要不可欠です。全国的な広がりをもつ日本キャンプ協会にとって、限られた資源の中で十分なコミュニケーションを保つことは大変難しいものですが、会員や関係団体みなさまのお力添えを得ながら、進めていきます。

少しずつ新しいことがらを積み重ねながら、新しい希望をいくつも見いだすことのできる一年にしたいと思います。

設立 50 周年記念事業の準備を進める

1966 年に設立された日本キャンプ協会は、2016 年に設立 50 周年を迎えます。記念事業として、「第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ会議」「第 21 回全国キャンプ大会」を中心とする複数の事業を計画しています。これらの事業が記念事業にふさわしい学びと交流の場となるよう、具体的な準備を進めます。

- ・ 複数の作業グループを立ち上げ具体的な準備を行うとともに、PRを進める
- ・ 会員はじめ多くの人々が「作る側」「伝える側」として参画できる事業に
- ・ 海外の人に日本のキャンプと文化を伝える取り組みを通じて、日本のキャンプ文化の再認識する機会に

設立 51 年目からの日本キャンプ協会を考える

社会の変容に応じてキャンプの意義も多様化しています。また、指導者資格を基本とした会員制度の維持は、今後難しくなっていくことが予想されます。こうした変化に対応する方策を検討し、社会に貢献し続けることのできる日本キャンプ協会の設立 51 年目からの姿を多面的に検討します。

- ・ 指導者養成制度の改良に向けた検討
- ・ 経営基盤安定化に向けた検討
- ・ 多くの人々が関与する新たな運営体制づくりに向けた検討
- ・ 新たな経営資源の模索

キャンプの普及と振興につながる事業を着実に行う

キャンプの普及と振興につながるさまざまな事業に改善を加えながら、着実に実施していきます。

- ・ キャンプインストラクター／キャンプディレクターの養成
- ・ キャンプアカデミー／Café de Camp／CAMPING 発行などの研修事業
- ・ Camp Meeting in Japan／キャンプ研究などの情報の発表と交流の場の提供
- ・ 体験活動の場としての静岡県立朝霧野外活動センターの運営
- ・ キャンプのフロンティアとしての都道府県キャンプ協会が行う活動の支援
- ・ Special Needs Camp に関連する調査研究

2015 年度

公益社団法人日本キャンプ協会 事業計画

| | |
|--------------------------------|----|
| キャンプの活動を発展させ、広めていく事業 | 4 |
| よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業 | 13 |
| キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業..... | 16 |
| 法人事務 | 19 |

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業

キャンプを通じた社会貢献の実現には、多くの理解者、支援者を得ることが必要となる。そのためには私たちの活動を知ってもらうための取り組みが求められるとともに、私たち自身が現代の社会状況の把握や対象の理解を深めていくことが欠かせない。そこで、自然体験活動の場の運営や都道府県キャンプ協会等の取り組みの支援、先行事例の情報収集などを行うとともに、そこで得られた情報の共有を積極的に図る。

また、この年度は翌年に設立 50 周年を控えており、2016 年度に行う複数の記念事業に向けた具体的な準備を進める必要がある。この作業は単なるイベントの準備にとどまらず、51 年目からの日本キャンプ協会を支える基盤づくりにもつながるものである。

1. 創立 50 周年記念事業に向けた取り組み

設立 50 周年となる 2016 年度には、第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ会議(AOCC2016)を中心とする複数の記念事業を計画している。国内外のキャンプ関係者のみならず、さまざまな形で子どもの支援にあたる人々が多く集い、学ぶことのできる場とするため、この年度から具体的な準備を進める。

2015 年秋には発表者の募集を開始、2016 年 2 月をめどに参加者募集を開始する。

(1) 50 周年事業組織委員会

関係団体代表等で構成され、大会全体の組織、運営について検討・承認を行う。

※2015 年 10 月に第 2 回を開催予定

(2) 作業部会等

事業・役割ごとにチームを作り、具体的な準備を進める。

| | |
|--------------|--|
| 大会事務局 | AOCC2016、全国キャンプ大会等の運営全体の管理を担当 |
| 実行委員会 | 各部会等の連絡協議体 |
| 研修部会 | AOCC2016、全国キャンプ大会等における口頭発表、ワークショップ等の企画・運営を担当 |
| キャンプ白書部会 | キャンプ白書 2016 の企画・編集を担当 |
| イベント部会 | AOCC2016、全国キャンプ大会等におけるパーティやポストコングレスツアー等の企画・運営を担当 |
| ホスピタリティ部会 | 国外参加者対応、ボランティア対応等を担当 |
| 子ども研究大会実行委員会 | 子どもサポート研究大会(仮称)の企画・運営を担当 |
| ICDC 部会 | プレイメントとしての研修会「International Camp Director Course(ICDC)」の企画・運営を担当 |

日本キャンプ協会設立 50 周年記念事業（案）

- ・ 第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ会議
- ・ 第 21 回全国キャンプ大会
日 程：2016 年 10 月 28 日～31 日
会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)
内 容：記念講演・基調講演・研究発表会・ワークショップ・レセプションパーティ等
※日程の前後に ICDC やポストコンGRES ツアー等を実施
- ・ 子どもサポート研究大会(仮称)
日 程：2016 年 10 月 29 日～30 日
会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)
内 容：記念講演・基調講演・研究発表会・ワークショップ等
※講演・ワークショップ等は内容に応じてアジア・オセアニア・キャンプ会議と共有する。
- ・ キャンプ白書 2016
2011 年発行の『キャンプ白書 2011』に続くもので、日本のキャンプの状況をデータを交えて紹介する。特にこの号は国際会議にあわせた発行となるので、英文で日本のキャンプを紹介するページを設ける。

2. キャンプアカデミー

対象理解はキャンプを行う上で特に重要なことがらのひとつといえる。そこで対象理解に役立つ基礎的な項目を扱う研修事業をキャンプアカデミーとして実施する。また、このような集合研修では参加できる人が限られてしまうため、内容をまとめ「CAMPING」や「キャンプ研究」で紹介するなどし、広く活用されるよう十分に配慮する。

キャンプ指導者のためのリベラルアーツ 2015

タイトルの「リベラルアーツ」は「基礎的な教養」を指すことばである。キャンプ指導者として知っておきたいことがらについて多様な視点で理解を深めるための講座をシリーズで実施する。

本事業については、関係他団体との共催も積極的に進めるとともに、各地で同様の研修機会を持つことができるよう努める。

テーマ：子どものこころ

日 程：2015 年 11 月～2016 年 1 月（2 回程度の連続講座）

- ※ 他団体との共催で行う事業については、日程やテーマ等について協議の上で確定するため、大幅な変更の可能性あり
- ※ 開催地域の拡大を含め事業追加の可能性あり

3. 地域活動支援プログラム

社会的課題に応えるキャンプが広く行われるためには、全国レベルでの啓発活動が行われるとともに、地域に密着した活動が各地で行われ、広くキャンプに対する認知を高めることが重要である。そこで、都道府県キャンプ協会が中心になって行う広域的もしくは公益性の高い事業に対して、資金的及び人的なサポートを行う。(第一期最終年度)

対象： 都道府県キャンプ協会及び地域ブロックが実施する広域的もしくは公益性の高いキャンプに関連する事業。

2015年度支援予定団体・事業

| No. | 事業主催団体名 | 事業概要 |
|-----|---------------------|--|
| 1 | 北海道・東北ブロック | スキルアップセミナーⅢ（仮） 指導者としてより深く知っておきたいテーマを取り上げ、研修事業を実施する。研修を通じて会員が実際の活動に取り組みきっかけとなるような働きかけを行う。 |
| 2 | 中国・四国ブロック | 山と海のコラボレーション自然体験活動 大山隠岐国立公園内の自然を生かして、自然観察、登山、キャンプクラフト、磯観察、マリンクラフトなどのアクティビティを行い、指導スキルの向上を図る。 |
| 3 | 九州・沖縄ブロック | 第4回九州キャンプ大会 in 福岡 九州地区の会員を中心に全国の会員が集い、学び合う大会を実施する。大会の一部で一般市民に向けたアクティビティを提供することで、キャンプ協会の周知を図る。 |
| 4 | 一般社団法人 宮城県キャンプ協会 | 家族で防災エコキャンプ！ ～キャンプの力を生かして子ども防災リーダーを育てる～（仮） 災害発生時に役立つ防災生活力が身に付くプログラムを提供し、地域に貢献する「防災リーダー」の育成を図る。 |
| 5 | 石川県キャンプ協会 | いしかわキャンプフェスティバル 自然の中で楽しむプログラムを提供し、心身のリフレッシュや家族・友人との親睦を深め、キャンプに興味関心を持っていただく機会とする。 |

4. グリーフキャンプ（グリーフの状態にある子どもを対象としたキャンプ）

2011年3月11日の東日本大震災直後から、日本YMCA同盟、朝日新聞厚生文化事業団との共同事業として進めてきたグリーフキャンプは、この年度をもって三団体共同事業としてはいったん終息し、まとめの事業としてこれまでのキャンプ参加者等を対象としたリユニオンを実施する。

ただし、グリーフキャンプは子どもたちが日常生活を離れ、自分の置かれた状況について思索を巡らせるのにふさわしい場所となりうるもので、日本キャンプ協会にとって引き続き重要なテーマである。各地で立ち上がりつつある子どものグリーフサポートを行う団体との連携など、さまざまな方法を検討し、継続的な実施を模索する。

グリーフキャンプ・リユニオン

これまで日本YMCA同盟、朝日新聞厚生文化事業団との共同事業として行ったキャンプの参加者が集い、語り合う時間を設け、今後の継続的な支援につなげる試みとする。

日 程：2015年秋頃

会 場：仙台近辺

参加者：これまで実施したグリーフキャンプの参加者とその家族等

※朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた寄付金を利用して実施

（公益財団法人日本YMCA同盟・社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団との共同事業として実施）

5. 出会いと体験の森へ第5期（他団体と共同で行う事業）

日本キャンプ協会、日本YMCA同盟、東京YWCA、ボーイスカウト日本連盟、ガールスカウト日本連盟という「人を育てるキャンプ」に携わる団体が協力して、キャンプのよさを広く伝えたり、指導者の養成につながる事業を行う。

第5期となるこの年度は日本キャンプ協会が主管団体となり、「本と遊ぶ・本に出会う」と題して、本を使って学んだり、遊んだりする方法を学ぶとともに、実際に体験する場を設ける。

主 催：出会いと体験の森へ実行委員会

主 管：公益社団法人日本キャンプ協会

日 程：2015年10月25日 ※別途、事前研修会を設定予定

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

6. キャンプに関連する情報の発信及び相談業務

会報誌「CAMPING」を発行するほか、WEBやメールなどを活用してキャンプに関連する情報の発信に努める。また、キャンプインフォメーションセンターを運営し、一般のキャンプ愛好者等の相談に対応するとともに、キャンプ実施などに対する支援を行う。

(1) 会報誌「CAMPING」の発行

キャンプの教育的、社会的意義や安全にキャンプを行うための情報など、多様なことから全国の指導者会員のみならず、広く一般にも伝えるために、会報誌「CAMPING」を発行する。

発行回数：年間6回

発行部数：約15,000部

(2) WEBサイトの運用

幅広い情報のやりとりが可能なインターネットを活用し、多様かつ即時性の高い情報発信を行う。WEBサイト（www.camping.or.jp）では日本キャンプ協会の基本情報や新着情報を提供するほか、イベントカレンダーで都道府県キャンプ協会等が実施する事業の紹介も行う。

(3) メールマガジンの配信

イベント、研修会の情報や、助成金、人材募集などの情報を掲載したメールマガジン「CAMPING News」を発行する。

発行回数：年間17回程度（3週間毎）

送信件数：約2,100件

(4) キャンプインフォメーションセンター

広く一般に向けた情報提供を行う目的で、キャンプインフォメーションセンターを運営する。キャンプに関する相談に応じるほか、キャンプの企画・運営受託や各種関連事業に対する講師派遣、運営支援等を行う。これにより、キャンプの普及を図るとともに、キャンプ指導者の活躍の場が広がることも期待される。

7. 静岡県立朝霧野外活動センターの運営（自然体験活動実践の場の提供）

静岡県立朝霧野外活動センターの管理運営に参画して9年目を迎えるこの年度は、第3期指定管理期間の最初の1年となる。

朝霧野外活動センターは、静岡県教育委員会社会教育課の所管施設としてその機能を十分に果たしつつ、一方では日本キャンプ協会にとってのキャンプ・自然体験活動の実践の場として多くの事業を実施し、新しい野外活動の在り方やその具体的展開方法の開発に努めてきた。この年度も、主催事業、受け入れ事業を通して多くの人々の自然体験活動を支援するとともに、新規プログラムの開発や定着に力を注ぐ。また、周辺地域の人々や施設との協力関係を更に進めながら、地域に根差した野外活動センターとしての営みを継続する。

なお、地震その他の天災など緊急時の備えについては、静岡県及び周辺地域住民との連絡を密にし、緊急連絡網及び災害・事故対応マニュアルを基に利用者が安心かつ安全に活動ができるよう徹底する。

(1) 自然体験活動事業(自主事業)の実施

青少年自然体験事業

| 事業名 | 日程 | 対象 | 備考 |
|----------------------------|----------|--------------------------|------|
| 朝霧高原サマーキャンプ ～つながろう 富士山～ | 7月5日 | 小学校 5～6 年生 中学校 1～3 年生 | 事前研修 |
| | 8月6日～14日 | | 本研修 |

野外教育指導者養成事業

| 事業名 | 日程 | 対象 | 備考 |
|--------------------|-------------------------|-----------------------------------|---|
| 野外活動プログラム実習 | 4月10日～11日 11月13日～14日 | 利用団体の担当者 および指導者 | |
| 長期キャンプ 指導者養成講習会 | 6月13日～14日 | 専門学校生 短大生 大学生 | 全4回参加が必要 8月6日～14日は 朝霧高原サマーキ ャンプと並行開催 |
| | 7月11日～12日 | | |
| | 8月6日～14日 | | |
| | 10月17日～18日 | | |
| 野外活動指導者養成講習会 | 2016年2月5日～7日 | 野外教育に興味のある人 青少年団体の指導者 教育関係者 | |

県民自然体験事業

| 事業名 | 日程 | 対象 | 備考 |
|------------------------|---------------------|----------|----------|
| ちょっといい春 感じませんか | 4月18日～19日 | 家族・小グループ | |
| 朝霧高原 トレイルランニングレース | 9月5日～6日 | 家族・小グループ | |
| すてきな秋をあなたに | 10月3日～4日 | 家族・小グループ | |
| オリエンテーリング in 朝霧 | 11月21日～22日 | 家族・小グループ | |
| スケートキャンプ | 12月11日～12日 | 家族・小グループ | |
| | 2016年1月15日～16日 | | |
| | 2016年2月19日～20日 | | |
| | 2016年3月4日～5日 | | |
| 223(ふじさん)ウォーキング | 2016年2月21日 | 家族・小グループ | 静岡県富士山の日 |
| プラネタリウムと星空探訪 | 冬休み及び春休みに 各2回計4回 | 家族・小グループ | |
| スケートフェスティバル in あさぎり | 11月2日 2016年3月27日 | 家族・小グループ | |

施設開放事業

| 事業名 | 日程 | 対象 | 備考 |
|---------------|---------------------------|--------------------------------|----------------------------|
| プラネタリウム一般開放 | 原則毎月第3日曜日 春休み・冬休み期間 | 家族・小グループ | 13:15～14:45 15:00～16:30 |
| スケート一般開放 | 11月～3月の原則日曜日 春休み・冬休み期間 | 家族・小グループ | 13:00～15:30 15:30～18:00 |
| 朝霧カーニバル | 11月1日 | どなたでも | |
| あさぎりっ子スケートクラブ | 11月～3月の 水曜日又は木曜日 | センター周辺の小学校（井之頭小・人穴小）に通う児童とその家族 | 15:30～17:00 |

社会問題に対応した事業

| 事業名 | 日程 | 対象 | 備考 |
|---------|--------------|------------------------|----|
| ホッとキャンプ | 2016年3月1日～4日 | 不登校児童・生徒 引きこもりがちな青年 | |

自然環境保全に配慮する事業

| 事業名 | 日程 | 対象 | 備考 |
|-----------|----------|-------|-----------------------|
| 走れば山が美くなる | 通年 事業開催時 | 事業参加者 | インターネットによる啓発を中心に実施する。 |

(2) 受け入れ事業の支援

学校や地域の諸団体の利用について、利用目的に合った適切なサポートを行う。

(3) 新規プログラムの開発

野外活動における安全マニュアルを遵守しつつ、朝霧地域の立地を生かした新しいアウトディングプログラムの開発(ハイキングコースやコース図の新規作成等)に努める。また、ハイキング、オリエンテーリング及びフォトロゲイニング等の、地図とコンパスを利用できる活動を、利用者が目的に沿った形で気軽に行うことのできるよう多様に準備して、多くの野外活動を実施する際に必要となるナビゲーションスキルの普及を図りつつ、リピーターにとっても年間を通じて奥深い魅力の感じられる施設づくりを目指す。

(4) 地域との協働

隣接する富士丘地区をはじめ近隣地域との協力関係をさらに深め、朝霧野外活動センターが実施する各種事業への協力を仰ぐとともに、積極的に地域の行事へ参加をすることによって相互理解を図り、地域の活性化に寄与する。

国立中央青少年交流の家が主催する「静岡子ども体験フェスティバル」の開催に協力し、朝霧野外活動センターを会場にして、朝霧カーニバルと同日程で開催する。

8. 都道府県キャンプ協会の広報活動の支援

キャンプ指導者、キャンプ愛好者が身近な地域の情報を得ることができるよう、都道府県キャンプ協会の広報活動の支援を行う。

- ・ 会報同封サービス(会報誌等を CAMPING に同封して会員に安価に送付するサービス)の提供
- ・ WEB サイト用サーバー及び専用メールアドレスの提供
- ・ 各種情報の提供

9. 国外の情報の収集と提供

国際キャンプ連盟やアジア・オセアニア・キャンプ連盟等の国際ネットワークを活用して情報の収集を行い、会員をはじめ広く一般に提供する。

また、国外から得られた情報のうち会員等にとって有用と思われるものについては、抄訳を作成するなどして、積極的に共有を図る。

(1) アメリカキャンプ協会年次大会 (2016 ACA National Conference) への参加

会議日程：2016年2月9日～12日

会 場：アトランタ (米国)

(2) 国外情報の日本語による提供

国外の有用な情報の抄訳を作成し、WEB サイトや CAMPING 誌面などを通じて紹介する。

10. 安全啓発キャンペーン

キャンプを楽しく有意義な活動とするためには、一人ひとりが安全意識を高めることが求められる。そこで、7月第3日曜日の「キャンプ安全の日」を中心とする7月・8月に安全啓発キャンペーンを実施する。

また、それに先だって安全標語(安全いろはかるた)の募集を行い、野外における安全について、多くの人に意識していただく機会を設ける。

安全標語募集期間：2015年5月1日～6月25日

キャンペーン期間：2015年7月1日～8月31日

キャンプ安全の日：2015年7月19日 ※7月第3日曜日

11. 都道府県キャンプ協会に対するキャンプ用品・用具の配備

都道府県キャンプ協会がより多くの人を対象としてキャンプの普及につながる事業を行えるよう、

助成金を受けて、キャンプや講習会等で活用できるテント等のキャンプ用品、用具を配備する。

※一般財団法人日本宝くじ協会に助成金を申請（2014年10月に申請済み）

12. 研修・普及に関する事業改良の検討

キャンプの活動を発展させ、広めていくための取り組みは、取捨選択、改良を積み重ねながら継続的に行われてきた。しかし、ここ数年を見るだけでも、キャンプに関連する新しい課題、テーマがいくつも生じるとともに、情報伝達のための手段はますます多様化している。こうした変化に対応し、より効果的な事業運営を行うために、委員会を設け、研修及び普及事業のあり方を検討する。

よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業

キャンプの有用性・有効性を最大限に発揮させ、人々の心身の発達に寄与することのできるキャンプ指導者の養成は、本協会発足以来の大切な事業である。この年度も課程認定団体とともに指導者養成を着実に進める。

あわせて、指導者養成制度の改良に向けた検討にも着手する。検討ための委員会を設け、現代的な課題に対応してカリキュラムを修正したり、テキストを課程認定団体における養成に配慮した構成に再編集するなどの改良作業を進める。ここで検討した内容については2017年度以降に反映させることを予定している。

1. 公認指導者養成

(1) キャンプインストラクター養成

初級資格であるキャンプインストラクターの養成は、課程認定団体(全 345 団体)主催で実施する。

(2) キャンプディレクター2級養成講習会

中級資格であるキャンプディレクター2級の養成は、課程認定 A 団体(都道府県キャンプ協会)および事前に実施承認を得た B 団体(課程認定校)主催で実施する。

(3) キャンプディレクター1級養成講習会

上級資格であるキャンプディレクター1級の養成講習会は、日本キャンプ協会主催で実施する。

日程：11月13日～15日

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

(4) キャンプディレクター1級検定会

キャンプディレクター1級の検定会は、日本キャンプ協会主催、2会場で実施する。

東日本会場

日程：2016年1月16日～17日

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

西日本会場

日程：2016年1月頃

会場：未定

(5) キャンプディレクター2級移行措置

キャンプディレクター2級PDおよびMDのキャンプディレクター2級への一本化に伴う移行措置を実施する。

| | |
|--------------------|--------------------|
| 2級プログラムディレクター(PD) | レポート課題による移行 |
| 2級マネジメントディレクター(MD) | 移行講習にあたる研修の受講による移行 |

2. キャンプ指導者の審査・認定

| | | |
|-------------------------------|----|--------|
| (1) キャンプインストラクター新規資格申請者の審査・認定 | 目標 | 3,000人 |
| (2) キャンプディレクター2級申請者の審査・認定 | 目標 | 90人 |
| (3) キャンプディレクター1級申請者の審査・認定 | 目標 | 30人 |
| (4) 指導者資格(インストラクター・ディレクター)の更新 | 目標 | 7,900人 |
| (5) 課程認定団体の審査・認定 新規課程認定団体 | 目標 | 10団体 |

3. ディレクターゼミナール(連続講座)

キャンプディレクター有資格者を主たる対象とする、グループワークや討論を交えた小規模勉強会を実施する。実際にキャンプを企画する際に重要となるトピックに絞って、深く学ぶ機会とする。

テーマ：キャンプカウンセリング/キャンプマネジメント

日程：2016年1月～3月

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

4. 課程認定団体向け研修会

課程認定団体の指導者養成担当者を対象に、カリキュラムに則った指導者養成が行えるよう研修を行う。

日程：5月30日

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

5. 指導者養成のためのテキスト発行

キャンプインストラクター養成用として「キャンプ指導者入門」、キャンプディレクター養成用として「キャンプディレクター必携」の2種類のテキストを発行する。

6. 都道府県キャンプ協会指導者研修会

全国の都道府県キャンプ協会の会務を担当する指導者が集まり、それぞれの協会の状況等を共有し、継続的な指導者養成、協会運営を可能にするための研修を行う。

日程：第1回 2015年5月31日 第2回 2016年3月13日

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

7. 都道府県キャンプ協会の実施する BUC 事業等の承認及び支援

キャンプ指導者が新しい知識や技能を身につけたり、指導者同士が顔の見える関係をつくったりすることを目的に実施する BUC (Brush Up & communication) 事業を承認し、支援する。

※ 所定の期間に BUC 事業に参加し、手続きを完了した会員に対しては、次年度の資格更新料を免除する。

8. 公認資格取得機会拡大につながる取り組み

日本キャンプ協会公認指導者資格の取得機会を拡大するため、課程認定団体数の増加に向けた取り組みを進める。

9. 指導者養成制度改良に向けた検討

現行の指導者養成カリキュラムは 2006 年に運用開始となり、まもなく 10 年を迎える。この間、キャンプを取り巻く社会情勢にもさまざまな変化があり、キャンプディレクター2級養成を課程認定団体主催で行えるようになるなど、制度上の変更もあった。

こうした変化に対応するため、委員会を設けて指導者養成制度改良に向けた検討を行う。準備は2か年計画とし、新しい指導者養成制度は 2017 年度からの運用を予定している。

キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業

キャンプの質を高め、普及を進めるためには、新たな実践について知ったり、専門的な研究結果に学んだりすることもまた重要である。

国内外のキャンプに関連する実践、新たな知見を蓄積、整理するとともに、わかりやすく社会に提供する。また、参加者同士が情報を持ち寄って学びあったり、各自が提案しながら新しい学びの機会を創造することのできる場を提供する。

1. Camp Meeting in Japan 2015 ～第19回日本キャンプ会議～

さまざまな地域、分野、立場で活躍しているキャンプ関係者が、日頃の実践の成果を口頭発表、ポスター発表、ワークショップのいずれかの形式で発表し、参加者間の情報交換や情報共有ができる機会を提供する。

この年度は関係他団体との連携をいっそう進め、翌年度の創立50周年事業につながるよう、交流の拡大を図る。

日程：2015年5月30日

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

2. 定期刊行物「キャンプ研究」発行

会員の研修機会のひとつとして、また、キャンプ関係者への情報提供を目的として、キャンプに関する論文、実践報告等を掲載した「キャンプ研究」を発行する。

キャンプディレクター資格保有者に冊子を配布するとともに、PDF版をWEBサイトで公開し、広く読まれるよう配慮する。

キャンプ研究第19号

発行日：2016年2月15日

発行部数：3,500部

3. Café de CAMP（カフェ・デ・キャンプ）

キャンプに興味を持っている人、これからキャンプに携わりたいという人を中心に集まり、講師を囲んで意見交換をしたり、相互に事例発表を行ったり、実践的なプログラムを体験したりする、つながり、学びあう場を設ける。

内容については参加者の意見を取り入れるとともに、キャンプ以外の団体とも連携し、日本キャンプ協会にとって新しいテーマも積極的に取り上げることとする。

日程：年間7回程度

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）ほか

4. Special Needs Campに関する調査研究とその周知に関する事業

Special Needs Camp（スペシャル・ニーズ・キャンプ）は、グリーフキャンプ（大切な人を亡くしたキャンパーを対象とするキャンプ）や障害児者キャンプ、病児キャンプなど、特定の配慮を必要とするキャンプを指す。キャンプを通じた社会貢献を考えた場合、欠くことのできないテーマである Special Needs Camp について、情報収集を進めるとともに子どもの支援活動を行う他団体との連携によるキャンプの実施を模索する。

(1) Special Needs Camp に関連する情報収集と基礎的研究

今後、Special Needs Camp を行ううえで必要になってくると思われることについて情報を収集し、整理する。この年度は、チャイルド・プロテクションと障害者差別解消法に重点を置く。

障害者差別解消法

2016年4月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行される。必ずしもキャンプに直接関係する法律ではないが、アメリカやオーストラリアなどでは、同様の法律に対応して障害の有無にかかわらずキャンプに参加できるための取り組みが行われている。それらの先行事例を検討し、日本における対応について考える。

チャイルド・プロテクション

キャンプ参加者が活動の中で虐待を受けることがないように、アメリカキャンプ協会のキャンプ認定基準では、ボランティアを含めたスタッフの採用の際に犯罪歴をチェックすることが求められている。欧米を中心に寄付を集めて Special Needs Camp を実施する団体では同様の基準を設けているところも多く、今後、日本でも必要となる可能性が高い。それらの先行事例を検討し、日本における対応を考える。

(2) El Tesoro de la Vida における研修

グリーフキャンプ普及のためには、専門家との連携やボランティアの確保、ファンドレイジングなど多くの課題がある。先行事例である Camp Fire USA First Texas Council 主催のグリーフキャンプ「El Tesoro de la Vida」への参加を通じて、それらの事柄について学ぶ機会とする。

日 程：2015年7月25日～8月2日

会 場：Camp El Tesoro（アメリカ・テキサス州）

※3～4名程度（参加にかかる交通費等は各自が負担）を職員1名が引率

(3) 子どもの支援活動を行う他団体との連携によるキャンプ

育児支援やグリーフサポートなど、地域に密着して日常的に子どもの支援活動を行っている団体が多く存在する。それらの活動の効果を強化する手段としてキャンプは大きな役割を果たせると考えられるが、人的、資金的問題から簡単に実現はできない。

そこで、それらの団体と共同し、キャンプのノウハウや人的資源を提供したり、ともに資金獲得の取り組みを進めることでキャンプを実施する方法を模索する。

法人事務

日本キャンプ協会の適正規模を模索するとともに、運営の効率化を図り、健全な財務管理に努める。また、新たな支援者層の獲得を目指して、その方策を検討するとともに、キャンプの最前線である都道府県キャンプ協会が円滑に事業を行えるよう効果的な支援を進める。

1. 諸会議の開催

- (1) 総会 第1回 2015年5月30日 第2回 2016年3月12日
- (2) 理事会 第1回 2015年5月16日 第2回 2016年3月12日
- (3) 執行理事会 随時
- (4) 都道府県キャンプ協会指導者研修会
 第1回 2015年5月31日 第2回 2016年3月13日
- (5) ブロック会議 都道府県キャンプ協会指導者研修会内及び各ブロックによる実施
- (6) 運営委員会／タスクチーム・ミーティング等

| 名称 | 概要 |
|---------------------|---------------------------------|
| 研修・普及事業委員会 | 各種研修事業の年間プランの検討と検証 |
| CAMPING 編集タスクチーム | CAMPING の企画編集 |
| 朝霧運営タスクチーム | 静岡県立朝霧野外活動センター運営 |
| Camp Meeting タスクチーム | Camp Meeting in Japan の企画運営 |
| キャンプ研究編集タスクチーム | キャンプ研究の企画編集 |
| 指導者養成委員会 | 指導者養成制度の検討および養成講習会等の企画運営 |
| 地域連携委員会 | 都道府県キャンプ協会へのサポート、ブロックでの取り組み等を検討 |

創立 50 周年特別事業に関するもの

| 名称 | 概要 |
|--------------|--|
| 50 周年事業組織委員会 | 2016 年に実施する協会設立 50 周年特別事業の構成・運営体制の検討 |
| 50 周年事業作業部会 | 2016 年に実施する協会設立 50 周年特別事業の個別事業の企画運営（詳細は P4 参照） |

他団体と共同で行う事業に関するもの

| 名称 | 概要 |
|------------------------------------|---|
| 出会いと体験の森へ実行委員会 ※事務局を日本キャンプ協会が担当 | 関連 5 団体で実施する「人を育てるキャンプ」に関連する事業の企画運営 |
| グリーンフキャンプ組織委員会 | 共同事業として実施するグリーンフキャンプの計画および報告の承認・全体計画の検討 |
| グリーンフキャンプ実行委員会 | 共同事業として実施するグリーンフキャンプの企画運営 |

2. 持続可能な協会運営を検討する取り組み

日本キャンプ協会の運営は、指導者資格を伴う会員制度を基盤としているが、将来にわたって安定的に運営を行うためには、今後、新たな経営資源が求められる。

新規事業を含む今後の事業のあり方、運営体制のあり方、各種助成金やプロボノ(各分野の専門家が、職業上持っている知識・スキルや経験を活かして社会貢献するボランティア活動)といった社会資源の活用、ファンドレイジング(民間非営利団体が活動のための資金を集める取り組み)及び支援者獲得のための方法などについて、検討チームを編成し考える。

3. 都道府県キャンプ協会の活動に対する支援

都道府県キャンプ協会は、日本キャンプ協会と密接な協力関係にある、キャンプ普及・振興の中心的存在である。有用な情報の提供や広報活動のサポートなどを通じて、その活動を支援する。

- (1) 都道府県キャンプ協会指導者研修会の開催(5月・2016年3月)
- (2) 都道府県キャンプ協会の行う諸事業の支援

4. 日常法人事務

- (1) 会員情報管理
- (2) 会費等徴収
- (3) 事業方針・計画・予算の管理
- (4) 日常経理業務
- (5) 事業運営管理
- (6) 助成金事務
- (7) 人事管理・職員の研修
- (8) 渉外事務
- (9) 庶務



日本キャンプ協会は 2016 年、設立 50 周年を迎えます

公益社団法人日本キャンプ協会

www.camping.or.jp